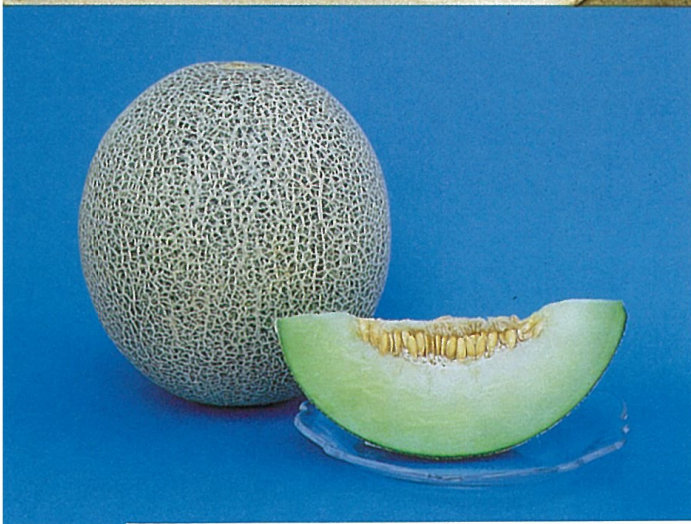


つる割病・うどんこ病抵抗性、高糖度で貯蔵・輸送性の高い緑肉種
 ハウス・トンネル春作這栽培用

注 つる割病菌レース0, 2に抵抗性
 (レース1, 1・2yには罹病性)

ホームメロン タカミ

特性と栽培方法



第1図 標準作型

| 地域 | | 月 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
|--------|--------|---|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 西南暖地 | ハウス這栽培 | } | ◎ | ♂ | ● | ○ | | | | | | | |
| | | | ◎ | ♂ | ● | ○ | | | | | | | |
| 東海・関東 | | } | ◎ | ♂ | ● | ○ | | | | | | | |
| ハウス這栽培 | | | ◎ | ♂ | ● | ○ | | | | | | | |
| 東北・北海道 | ハウス這栽培 | } | ◎ | ♂ | ● | ○ | | | | | | | |
| | 大型トンネル | | ◎ | ♂ | ● | ○ | | | | | | | |

◎は種 ♂定植 ●交配 ○収穫

公益財団法人 園芸植物育種研究所

〒270-2221 千葉県松戸市紙敷 2-5-1 TEL.047-387-3827 FAX.047-386-1455

育成経過

アムス、デリシイに次ぐ品種として、より栽培適応性が広く、糖度、肉質の安定した耐病性ネットメロンを目標にして育成した品種で、1990年に命名発表した。
 育成素材としては、アールスメロッキーフォードの固定系、アムスの固定系、園研2号（つる割病抵抗性台木用品種）、台湾導入系を使い育成した。品種名「タカミ」は貴味を意味する。

品種特性

- つる割病（フザリウム）、うどんこ病に抵抗性で、生育後半の草勢が安定する。つる枯病（キャンカー）にも強い。
- 雌花の着生は安定し、低温着果性も高いので、みつ蜂交配で安定した着果が得られる。
- ネット発現期、成熟期の裂果少なく、商品化率が高い。
- 果形はやや腰高、アムス、デリシイよりやや大果となり、果重は1.2～1.5kg、果皮は濃緑色でデリシイよりやや密にネットが出る。
- 果肉は緑色で厚く、しまりよく、発酵しないので、遠距離輸送が可能である。
- 肉質は収穫時には硬いが徐々に軟化し、収穫後5～10日の間が食べ頃で適食期間が長い。
- 標準糖度（Brix） 15～16%
- 成熟期間

| | | |
|---|--------|--------|
| { | 九州～関東 | 55～60日 |
| | 東北・北海道 | 50日前後 |

栽培の要点

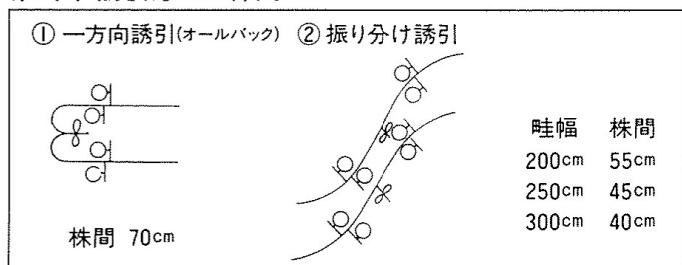
■**作型と栽培様式** 関東以西ではハウス、東北・北海道ではハウスまたはトンネル（被覆資材270cm以上）の春作這栽培に適し、作型は第1図を、栽培様式は子づる2本仕立、1つる2果、株4果穫りを基本とする。

■標準施肥（成分量kg/10a）

| | |
|------|---------|
| N | 10～12kg |
| P | 20～25kg |
| K | 12～15kg |
| Ca | 50～70kg |
| 完熟堆肥 | 2 t |

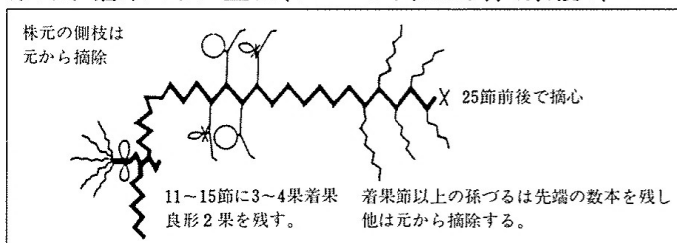
- 誘引方法と株間** 第2図を基本とする。
- 定植と温度条件**、高畦マルチ栽培とし、定植時の温度条件は、地温は地下20cmで18℃以上（最低15℃以上）、最低気温10℃以上を維持することが必要である。
- 着果節位と整枝** 第3図を基本とする。
- 着果方法** みつ蜂交配を原則とする。みつ蜂が使えない場合は筆交配、人工交配とする。
- 定植後の温度管理** 昼間の気温は晴天日で30℃、曇雨天日で25℃前後とする。最低気温は定植から交配期前までは12～14℃、交配期から果実の肥大期（開花から約40日間）14～16℃を目標に管理する。

第2図 誘引方法と株間



- 灌水** 鶏卵大からネット発生前までが最も灌水の必要な期間で、その後肥大の終了する開花後40日目くらいでほぼ完了する。
- 収穫・出荷** 開花後日数、果皮色の変化、結果枝の葉の褐変等が収穫期の目安となるが、最終的にはへたが緑色から白黄色に変わり、離層が発現し始めた時が収穫適期である。収穫時の果肉は硬く、軟化して食べ頃になるまで4・5日を要する。食べ頃は果実の側面を押してやや軟らかくなった時で、その後数日間が適食期となる。
- 病虫害対策** つる割病（フザリウム）、うどんこ病に抵抗性で、接木、防除の必要はない。つる枯病（キャンカー）にも強いが、その他の病虫害と同様に通常の防除が必要である。

第3図 着果節位と整枝（子づる2本仕立、株4果穫り）



- 株元の数葉は交配期前に摘除し通風、日当りを良くする。
- 生育後半に伸びてくる枝で、特に強いものは先を止める程度とし、元から摘除するような強整枝はしない。
- 自然着果した果はその都度摘果する。